

UMC-Japanese Ministry
11 Highgate Terrace
Bergenfield, NJ 07621 USA

新サーキットライダー2012年11、12月号



United Methodist Church - Japanese American Ministry

合同メソジスト教会日本語ミニストリー

c/o The Church of The Good Shepherd, 326 New Bridge Road, Bergenfield, NJ 07656

Pastor : Rev. Dr. Jun Yoshimatsu 牧師 : 吉松 純

Church: (201) 385-4100 Homepage: www.umc-japan.org

インマヌエル、神我らと共にいます

その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。そこで、弟子たちは群集を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。他の舟も一緒であった。激しい突風が起り、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、私たちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり風になった。イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互に行った。(マルコ4：35-41)

10月末ここニュージャージー、ニューヨーク等東海岸一体はハリケーン・サンディーによって多大な被害がもたらされました。バーゲンフィールドは5日間の停電の他、教会の表庭の木の大枝が折れて倒れたり、一部の家では倒れた木が家屋を壊したりしましたが全体としては最小の被害で済みました。しかし南ニュージャージーや海岸線の町々は浸水、家屋全壊、半壊に加え、停電2週間以上、ガスも止まり、水道も断水と避難生活を余儀なくされた方が何万と出ました。ホテルに避難するにもホテルがあちこち満杯で、何十キロも離れたホテルやインに行かねばならなかったり、ガソリン・スタンドが停電で開けられず、開いているスタンドに車が並び何キロにもわたって渋滞したりと経済的被害も数十兆ドルに及びました。



教会表庭の折れた大枝

10月29日、私は翌日に一時帰国を控え用意をしていましたが、私の30日のフライトはちょうどハリケーンがニュージャージーに上陸する日でキャンセルになる可能性が大きくなっ

ていました。飛行機会社というのは融通が利かないもので、フライトが悪天候や事故、機体の故障などで正式に会社側からのキャンセルにならないと予約の変更ができません。正式キャンセルになる前に予約変更を頼むと搭乗客個人が望んでフライトを変更したという扱いになり、違約金を取られたり変更手数料を取られるのです。と言うわけでハリケーンで確実にフライトがキャンセルになるだろうと思われても航空会社ホームページや空港アナウンスで正式にキャンセルになるまでフライトと変更を待たなくてはならない、という何とも悪い対応を余儀なくされました。

私は仕方なくコンピューターの画面を見つめ、旅行代理店、航空会社と電話で何度かやり取りをし、29日の午後、正式に30日のフライトがキャンセルになったのを確認し、慌てて航空会社に再度電話し、かなり待たされましたが、なんとか11月1日の夜の便に変更することができました。その僅か数時間後、ハリケーンで停電となり、コンピューターも電話も使えなくなり、全く外と交信できなくなりました。唯一使えた携帯も充電ができないため、必要最低限の連絡のみとし、とにかくその日は電気が止まり暖房もなくなったので、暖炉に薪をくべ暖をとって、キャンプで使うランタンを灯して明かりとしました。翌日、知り合いで電気が繋がっているお宅があるかどうか電話してみて、何軒か繋がったので、そちらで携帯を充電させていただいたり、心配な教会員宅に連絡をしたりすることができました。

昨年日本の東北大震災では今回のハリケーンどころではない想像を絶する悲惨な体験をされた方が何十万といいますが、どれほど心細く悲しかったことだろうと改めて思われました。それに比べれば私はたかだか5日の停電にも拘らず、東京で11月2日に予定されていたサマーキャンプの元キャンパー、カウンセラーとのリユニオンに出席できなくなったり、帰国後の諸々の予定を変更せねばとうろたえたり思い煩ったりし、全てを神の御心にお委ねするという平常心を若干失っていました。

それでも当初帰国直後2日間に予定していたアポや行事は出ることはできませんでしたが、今回の帰国の一番の中心事項だった父の80歳の誕生日、また妻の泉の父の80歳の誕生日をそれぞれお祝いすることができました。翌週からは予定通り四国、関西、東海的美術館を巡り、関西では懐かしい皆さんとも会うことができ

、無事ニュージャージーに戻って来れました。
徳島県鳴門大橋の下、大塚国際美術館モネ庭園にて

吉松 純



私たちは時に神が共にいてくださり、見守っていて下さることを忘れて右往左往してしまいます。それはイエスの弟子達も同様でした。彼らはガリラヤ湖を数隻の小舟で渡ろうとしていました。その最中に突風に襲われ、風の影響で波も高くなり、今にも小舟は沈んでしまうのではという恐怖に駆られました。しかしそのような嵐の中、なんと艫の方にいたイエスは枕して寝ていました。それはイエスが創造主なる神を信じ疑うことがなかったことによって得られた揺ぎ無い平安のうちにあったからです。勿論、あちこちで伝道し説教し、病人を癒し・・・ととても疲れていたこともあったと思いますが、それ以上に神により頼み全てを委ねるという信仰の故の安眠だったと思われます。

弟子達はたとえどれほど舟が揺れていたとしても、波を被ったとしても、世界を創造し、嵐も波もその手中にある全能の神、そしてその神の子であるイエスと共にいたのですから、決して沈むことは無いと信じ航海を続けるべきでした。イエスが共にいて下さるのなら何を恐れることがありましよう。

「インマヌエル、神（イエス）我々と共におられる。」これはクリスマス・ストーリーで天使がまだ聖霊の働きと知らず、マリアは自分の子ではなく、他の男性の子を身ごもったと思いついて悩んでいた時にヨセフに与えた言葉ですが、単にクリスマスの時だけの御言葉ではなく、いつでも私たちに与えられているメッセージです。イエスは我々と共におられる。嵐の中でも、平常時でも、病める時も、健やかな時も、喜びの時も、悲しみの時も。

どうぞそのことを覚えてクリスマスをお迎え下さい。

礼拝予定：

12月：クリスマス礼拝、プログラムは別紙を参照下さい

2013年 1月

6日：顕現節礼拝、聖餐式、Jr教会：新年の目標、ユース、お餅を一緒にいただきます

13日：Jr教会：書初め、ユース、聖書の学び

20日：Jr教会、ユース：キング牧師について

27日：Jr教会、ユース、聖書学び

お祈りと献金の御協力をお願いします。チェックのあて先はUMC-

JAとし、どのプログラムに献金したいか明記してお送り下さい。

- *自然災害被害者の為、日本の東日本大震災、
- *来年2012年に開かれる第4回東部日本語教会合同ファミリーキャンプの為
- *ハーベスト・タイムのミッションの為
- *消印のついた切手の周り1センチの余白を残して切り取って下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（JOC S）に送ります。JOC S海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。
- *アフリカの恵まれない子供達やエイズの患者の為特別献金をしています。
- *パターンソンの社会福祉団体CUMAC/ECHOの為に。CUMACは合同メソジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと路傍伝道をしています。

教会の住所：

UMC-Japanese Ministry

The Church of the Good Shepherd, UMC.

326 New Bridge Rd. Bergenfield, NJ 07621

英語オフィス(201) 385-4100

ホームページ：<http://www.umc-japan.org>

English Website: www.cgs-umc.org

牧師館：(201) 338-2744

吉松牧師 jun.yoshimatsu@gmail.com

教会学校担当：吉松 泉姉

izumi.yoshimatsu@gmail.com